

「ただの葉っぱ」が過疎の町を救った。日本全体の人口が減少するなか、中山間地域や山村は過疎化が進み、地域の活力維持が困難になっている。しかし、過疎の町・徳島県上勝町では、お年寄りによる「葉っぱビジネス」が町をよみがえらせた。その成功事例は中学校の教科書に採用され、全国の中学生が今、過疎地域を振興する重要性をしっかりと学んでいる。

日本の過疎地域は、面積で立地や機能に関する特色ある国土の半分以上57・3%を事実を中核として、人々の生占めるが、人口は1割に満たない8・1%。だが、過疎地域は国土保全、水源、温暖化防止、生物多様性など様々な面から重要な地域であり、過疎地域の活力を維持、振興する必要性は極めて高い。

学校でも、中学校社会科の地理的分野では、日本の各地域を学習する際に「人口や都市・村落」を学習の中核とし、地域の産業、文化など様々な要素を関連づけて、過疎地域の特色を学習している。

学習指導要領は「……人口の分布や動態、都市・村落の



葉っぱをパック詰めするお年寄り

じの葉などの「つまもの」を生産し、高齢者を中心に高い現金収入を得ることに成功した。

「葉っぱビジネス」は第3セクター「株式会社いろどり」が主導。柑橘類を使った商品開発やお茶の開発、しいたけの販売などに拡大し、過疎地域の活性化事例で注目される。都会から若者の移住希望もあり、過疎地域の魅力あふれる地域づくりに発展した。

「いろどり」の取り組みは中学校社会科の地理的分野の教科書（4社）全てが採用。全国の中学生は過疎地域の取り組みとして、必ず上勝町の「いろどり」を学んでいる。

上勝町は徳島県中央やや南東寄りにあり、徳島市中心部から南西約40km車で1時間ほどの町。東西19km南北12kmで四国一小さな町という。2013年3月末の人口は、1866人、うち65歳以上がほぼ半分の920人を占め、高齢化、過疎化が進む。

「いろどり」によれば、葉っぱビジネスは1987年に始まり、つまものは現在320種類以上。商品が軽く綺麗で、女性や高齢者も取り組める利点から、70代以上を中心に年間売上高は2億6000万円。1000万円以上の収入を得たお年寄りも。人口の2倍の視察者が訪れ、吉行和子、富司純子、中尾ミエら出演の映画「人生、いろどり」も制作、DVD化もされた。

教科書会社によって違いはあるが、「いろどり」の記述は、大きく2つの視点から過疎地域振興の重要性を子供達に学習させる内容である。

徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」を全国の中学生が学習中

「いろどり」商品「つまもの」の南天の葉（左）とさくら



第1は、地域にある資源を地域住民が自ら探し、開発する重要性である。上勝町では山にある「ありふれた植物の葉」が、都会の料亭では貴重な「つまもの」として利用されること、つまり地域の貴重な資源であることに気づき、ビジネス化している点だ。

過疎地域が「ないものねだり」をするのではなく、地域住民が自ら地域の資源を探し、重要性を中学生に伝える。また、葉っぱを集めパックに詰めただけでは商品にならず、大きさや色を揃えてはじめて価格がつく商品として販売可能になる訳で、地域資源を地域住民が知恵を出して磨き上げる大切さも示している。

第2は、過疎地域での情報通信ネットワークの重要性を学ばせている点。おばあちゃんがパソコンの前で注文を確認する写真を掲載した教科書もあり、大阪や東京の市場が求める多様な短納期の注文に対し、情報通信システムを駆使し臨機応変に出荷できるシステムを「いろどり」が構築

していることを示している。交通面のハンディを乗り越えるには、情報通信ネットワークの活用は不可欠であり、「いろどり」による高齢者向けのIT研修会や、高齢者向けマウスの開発事例を紹介している教科書もある。

（文部科学省初等中等教育局 三橋浩志）

では、社会科で過疎地域振興の重要性を学ぶとともに、上勝町の事例などを学習するこ

参考資料：総務省「過疎対策の現況（平成24年度版）」／上勝町・いろどりHP

と車が情報を共有し、カーナビをセットする必要もなく、その畑まで半自動運転で案内してくれます。ガイドブックにもない知られざるとっておきの景色に向け、いざ出発——。

道の駅と先端技術が融合した世界では、実用段階に達している拡張現実（AR）という情報工学技術と、高度道路交通システム（ITS）という先端交通技術が組み合わせられれば不可能ではありません。その地が初めての外国人ユーザーにも、新技術の融合時代の「日本」を紹介できます。

道の駅の情報発信機能も、先端技術が集積・融合すれば、ますます魅力的なインフラ拠点になるでしょう。それができるのも、世界で唯一、道に「駅」がある日本の強みです。

点描

道の駅

国道愛好家 松波成行

近未来の道の駅を空想してみます。旬の食材が豊富な地場産コーナーでのこと。地元名産の果物にスマホをかざすと、ディスプレイに生産者情報が表示され、動くはずのないその果物が動き出しました。映像は現実世界から、果物が生まれ育った「過去」の畑へといざなっていく。新緑が芽吹く季節の、美しい山々に囲まれた果物の誕生した故郷。微笑ましい映像に心惹かれ、画面脇にある地図のボタンを押せば、その畑までの道のりが示されました。車に戻りスマホをダッシュボードに置くと、スマホ